

重点取組名	エコファーマーの育成・支援	普及センター名	県央普及センター
活動対象	長崎県央農協中部地区トマト部会	実施期間	平成17年4～18年3月

【対象の概要】

長崎県央農協中部地区トマト部会（26名）は、環境に優しい農業生産や食の安全・安心に対する要求の高まりにより、平成14年12月に部会全員がエコファーマーの認定を受け、計画達成に向けての取り組みを行っている。

【課題設定の背景】

エコファーマーとしての目標を立て生産活動をスタートさせたが、平成15年頃よりトマト黄化葉巻病の地域全体での多発が問題となった。本病の媒介昆虫（ツバキリコガネ）が難防除であるため、化学農薬による防除回数が増加し、計画達成に向けての課題となった。この課題を解決するためには、トマト黄化葉巻病の総合的な防除体系の確立・実践、併せてトマト圃場周辺を含めた地域ぐるみでの環境整備が必要となった。

【活動目標】

1. 中間年度での実施状況を把握し、計画達成に向けての各生産者の課題を明らかにする。
2. トマト黄化葉巻病の対策を現地で確立・実践することにより、効果的な防除方法を確立し計画実現を目指す。
3. 地域ぐるみでのトマト黄化葉巻病の対策の意識付けを行うため、広範囲な啓発活動を実施する。

【活動経過】

1. 関係機関との連携支援体制

大村市環境保全型農業推進協議会で持続的農業の推進総合的な支援を行う。

- ・計画達成に向けての技術的な支援
- ・エコファーマー中間年度実施状況調査の実施

特にトマト黄化葉巻病の対策・指導については、大村市病虫害防除対策協議会を主体として病害発生の実況把握・技術対策指導・啓発活動を実施。

◎大村市病虫害防除対策協議会	構成機関	大村市農業水産課 長崎県央農協中部営農センター 長崎県北部農業共済組合大村支所 病虫害防除所 県央農業改良普及センター
----------------	------	---

2. 支援内容と経過

(1) 中間年度実施状況調査による支援

認定からこれまでの取り組み状況について中間年度実施状況調査を行うことにより、各生産者の計画の達成度合いを確認するとともに、達成に向けての指導・支援を行った。

(2) 総合防除展示圃場の設置

農薬のみに頼らないトマト黄化葉巻病の防除体制の確立がエコファーマー計画達成の鍵となるため、モデル防除体系の作成・提示とともに、現地圃場での物理的防除に重点を置いた総合防除体系確立のための展示圃場設置を行い、二次育苗期対策を行った。

(3) トマト生産者研修会の実施

トマト黄化葉巻病対策の徹底のために、トマト生産者（トマト部会員外も含む）に対して、知識習得のための研修会を実施し、トマト生産者全体として意識向上を図った。

(4) トマト黄化葉巻病発生状況調査

大村市内のトマト生産者すべての圃場でのトマト黄化葉巻病の発生状況の調査を行うとともに対策指導を行った。また、調査結果については講習会等で情報提供を行った。

(5) 啓発活動の実施

一般市民の家庭菜園等でのトマト栽培者に対して、トマト黄化葉巻病の発生の実態についての情報伝達を市広報誌・町内回覧板の利用により行うとともに、家庭菜園でのトマト黄化葉巻病発生株の抜き取り指導により防除対策への協力依頼を行った。



啓発用パンフレット

【普及活動の成果】

(1) 中間調査実施

トマト部会員すべてに対して、個別面談での調査を実施し、各生産者の取り組み状況について把握ができた。全体的な調査結果で共通する点は防除面での課題は依然として大きく、薬剤感受性の低下などにより農薬散布回数が多い傾向の生産者が見受けられる。

また、施肥面では長期の作型であるため、元肥での化成肥料の施用量は押さえられているものの、追肥での施肥量が多くなってきている。

(2) 総合防除展示圃

展示圃実施内容（トマト黄化葉巻病を媒介するシルバーリーフコナジラミの防除対策）

- 物理的防除    紫外線カットフィルム（塗布剤の利用）・黄色粘着テープ・ハウスサイド・谷部への防虫ネット被覆・ハウス周辺部への光反射マルチの設置  
収穫終了後のハウスの蒸し込み
- 化学的防除    鉢あげ・定植時の粒剤施用の徹底
- 生物的防除    微生物農薬の利用
- 耕種的防除    定植時期の遅延（10月上旬以降の定植）



反射マルチ・黄色粘着テープ設置の様子

以上のような、総合的な防除対策を講じることにより、展示圃でのコナジラミの発生を抑制し、トマト黄化葉巻病の発生を軽減することができた。

【調査結果】

育苗ハウス	平成17年産 2株廃棄（感染の疑い） （平成16年産 約50株の感染・廃棄）
本圃	シルバーリーフコナジラミ発生数 試験ハウス 17.2頭    慣行ハウス 29.8頭（2月末現在） （調査方法：10cm × 10cmの粘着板への平均付着数をカウント） 黄化葉巻病発生株数 試験ハウス 10株/5a    慣行ハウス 21株/5a（2月末現在） （平成16年産 約50株以上抜き取り）

(3) トマト生産者研修会

トマト黄化葉巻病の対策のためには、トマト部会員だけの努力では困難であり、大村市内のトマト生産者相互の努力が必要であることを研修会を通して認識させることができた。



トマト研修会の様子

【対象の声】

- 地域ぐるみでの環境保全対策のため、関係機関と連携した普及センターのコーディネーターとしての役割への期待が寄せられている。
- 防除対策については、課題が変化するため、技術情報の提供を含め継続した指導への要望があがっている。

【今後の課題】

1. 中間調査で把握できた各生産者の施肥・防除面における課題解決によるエコファーマー計画の達成が必要
2. 栽培履歴記帳の充実が必要
3. 持続的農業の更なる推進のための手法として、GAP（適正農業規範）の実践を検討
4. エコファーマーからのステップアップのため、特別栽培の可能性などの検討が必要

【成果の活用及び普及活動上の留意点】

1. 総合防除展示圃で得られたデータや手法について、広く部会内へ普及することによりトマト黄化葉巻病対策を徹底し、計画達成を目指す。
2. 新システムの媒介昆虫の実情把握と、対策指導を早急に行う必要がある。